



◆其の七十八

「ちくしの」の歴史はじまる

草原が広がる丘に現れた三人。彼らの目は、遠くで草を食べる動物の群れに向けられています。目当ての場所には、風下から息をひそめながら少しずつ間合いをつめます。

風が吹きぬけた瞬間、砂ぼこりを巻き上げて逃げだす獲物。あわてて獲物へやりが投げられます。倒れすべては一瞬のことでした。



隈・西小田遺跡から出土した石器

た獲物にかけ寄る彼らは、やりを引き抜き、あらためてやりを握る手に力をこめます。

これらは、今から約1万2000年前頃(後期旧石器時代)の生活の風景です。

市内の発掘調査では、ナイフややりのような石器が発見されます。石器に使われた石材は、遠く離れた佐賀県伊万里市周辺で採取されたもので、広域な交流もうかがえます。

獲物を捕らえるために鋭く加工された石器は、旧石器時代の狩猟生活と交流が行われていたことを示すのです。

筑紫野市の歴史の第一歩は、狩りをしながら生活をする人々の歩みから始まりました。

関文化財課

